

学校だより

Vol.

112

2022.4

Contents

- 02 専攻科修了式・本科卒業式告辞
- 04 祝 卒業・修了
- 14 卒業生・修了生の進路
- 15 学生会
- 16 学生の活躍
- 17 TOPICS
- 22 小論文コンクール
- 23 わくわく体験授業
- 24 国際寮の新営披露式を開催
- 25 退職者挨拶
- 27 新任教職員紹介



福島工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Fukushima College



第17回専攻科修了証書授与式 第56回卒業証書授与式 告辞

福島工業高等専門学校

校長 山下 治



修了生・卒業生諸君、
修了・卒業おめでとうございます。

春が訪れ、学生諸君の
旅立ちの時が参りました。新型コロナウイルス
の感染が続く中ではありますが、本日、三年ぶり
に保護者の皆様もお迎え
して、卒業式が挙行でき

ることを皆様と共に喜びたいと思います。

この度、本校を巣立つのは、専攻科の産業技術シ
ステム工学専攻38名、及びビジネスコミュニケーション
学専攻5名の専攻科修了生計43名、並びに、本科生と
して、機械システム工学科36名、電気・電子システム
工学科32名、化学・バイオ工学科36名、都市システム
工学科40名、ビジネスコミュニケーション学科37名の
計181名です。

修了生・卒業生の保護者・ご家族の皆様には、本
日、ご卒業のお子様を、このように立派に育て上げら
れましたことに、敬意を表しますとともに、心からお
祝いを申し上げます。

修了生・卒業生の皆さん、諸君がこの度卒業・修了
を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に
励み、精進を重ねてきた結果であり、コロナ禍の中で
遠隔授業、大会・イベントの延期・中止等があったに
も関わらず、これをやり遂げたことに自信を持ってほ
しいと思います。同時に、ご家族の愛情と支援、教職

員の熱心な指導のお陰でもあり、諸君を育み共に困難
を乗り越えてくれたすべての方に、感謝の気持ちを
持っていただきたいと思います。

さて、皆さんが、これから生きていく社会は、悪く
言えば「先が見えない不透明な社会」、よく言えば、
人類がこれまでできなかった夢が実現する楽しい社会
でもあります。そして、人生を築くのは皆さん自身
です。「人は意志と努力によって人生を上げること
ができます。」しっかりした自らの「意志」を持っ
てこれからの道を歩んで下さい。そこで、これから充
実した人生を送るため、皆さんに心がけてほしいこと
を三点申し上げます。

まず一点目ですが、「正しい目標を持つ」というこ
とです。

目標は、大きな目標を一生かけて追いつけるのも大
切ですし、小さな目標を少しずつクリアすることも必
要です。そのために、目標を人生のステージ毎で変え
てもいいのです。目標は、人それぞれに与えられた運
命と意志によって千差万別です。そこで、その目標が
正しいか否かを判断することが重要です。判断基準
は、倫理・道徳・社会状況等数多くありますが、今であ
ればその一つに「持続可能な社会」を構築するという
目標「SDGs」があります。これらは、一国だけではなく、
人類全体が、豊かに、かつ幸せに暮らし続けて
いくための方針となっています。

まず皆さんには、世界中の人々の共有の価値として
位置づけられるこの概念を、よく理解し、迷ったらこ
の方針に沿って正しい目標を考えるということをお勧
めします。

二点目は、問題解決にあたり「正しい手順を踏む」
であります。今は、価値観が多様化し、何が正しいの



か？解らないことがたくさんあります。皆さんは「適正手続き」ということを知っていますか？行政の世界では、正しい内容であっても、正しい手続きを踏まないと主張ができないことになっています。数式の証明や実験・実習においても手順が大切です。私が大学生の時出会ったアメリカの作家のデール・カーネギーの「道は開ける」という本に問題解決のための正しい手順が載っています。要約すると、問題解決のためには、①事実の把握、②事実の分析、③決断（正しい判断）そして実行、の三段階が必要であるということです。本格的な悩みに当たったときは、これが成長のチャンスと捉え、三段階の正しい手順を踏んでじっくり考えてみてください。「道は必ず開けます」。

三点目は、「レジリエントであること」です。人生には、順調に進むこともありますが、停滞や後退することもあります。困難に負けずに新しいステージに進むためには、復元力、粘り強さ、つまり「レジリエンス」が必要です。

レジリエントであるために必要なことの一つは、学び続けることです。高専生は、大学生よりも二年早く社会に挑戦できる専門能力を身につけます。この早期専門教育は世界的に評価されています。しかし、弱点もあります。弱点を素直な気持ちで受け入れ、学び続けることでその弱点を補いつつ利点である専門能力を強化し「レジリエント」に社会で活躍してほしいと思います。困難を超えるたびに皆さんは強くなり、新しいステージで新たな景色が展開します。あとで振り返れば、必ずや楽しい思い出になるでしょう。

ただ、努力は持続可能であることが重要です。ヘロドトスという歴史上の人物は「弓は張ったままにしない」という名言を述べています。日々の努力を忘れ

ず、適度に休養し、これからの人生を楽しんで下さい。

去る一週間前、東日本大震災後11年を迎えました。「福島の復興なくして日本の再生なし」と言われています。福島の復興はまだその途上にあります。その思いを肌で感じている皆さんには、福島の復興、ひいては日本経済復興に向け活躍すべき理由があります。活躍とは何か？それは人々のウェルビーイング（幸福）を実現することであり、これは科学技術の使命でもあります。難しいことではありません。活躍の対象をはじめは自分自身の幸福に、そして、家族に、地域に、日本へ、世界へと広げていけばいいのです。本校が掲げる「グローバルに活躍する次世代技術者を育成する」というスローガンの意味は、世界的視野を持って地域で活躍するということです。ここでいう地域の範囲は、「自分自身から世界まで自分次第」です。そして、皆さんのルーツである故郷（ふるさと）福島を忘れないで、いつか地元の復興・発展に貢献していくという意志を持ち続けていただきたいと思います。

最後に、高専の教育は裏切りません。培った高専スピリッツを生かし、レジリエントに自らの意志を実現してほしいと思います。諸君のこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。



機械システム工学科

Mechanical System Engineering



自分に期待しましょう

機械システム工学科 5年担任 赤尾 尚洋

この5年間よく頑張りました。お疲れ様でした。ただ、これも保護者の方や支援してくれた人のおかげである事を忘れないでください。

この後皆さんは、それぞれの道を行くこととなりますが、まずは絶対的に経験が不足しています。それを補うためにもどんどん挑戦してほしいと思います。本校での経験からも、誰かに成長させてもらうわけではなく、自ら成長するものだ気付いていると思います。成長する為には自分を適度なプレッシャーの中に置く必要があります。自分を教育する意識を持ちましょう。これから長い人生では必ず挫折することもあります。そういう時は成長するチャンスだと捉えて、めげずにしなやかに乗り越えてほしいです。ただし、どうしても落ち込む時は自己防衛を最優先して下さい。

また、社会でうまくやって行くには可愛がられることも大切です。人の気持ちを尊重して一生懸命にやっていたら、誰かが助けてくれるはずです。

頑張ってください。

5年間、お世話になりました!!

機械システム工学科 5年 円谷 優介

私にとって高専生活は今まで最も濃厚でした。1年生で担任の先生にクラス委員長を任命されてから5年間やり続けてしまいました。あのとき担任の先生が委員長に任命してくれなかったら今の私はいません。そして今まで私についてきてくれたクラスメイトにも感謝しています。また、寮生活をしていた身として、肩身の狭い1年生の生活から胸を張って堂々と歩ける5年生まで成長してきました。楽しいこと、辛いことたくさんありましたが先輩、後輩、そして同級生と過ごしてきた時間は一生の思い出です。

このような高専生活を送れたのは先生方をはじめとした教職員の皆様、家族の支えがあってこそでした。私の高専生活を支えてくださった皆様への感謝の気持ちを忘れずに卒業後も精進していきます。

5年間、お世話になりました!! このご恩は一生忘れません。

電気電子システム工学科

Electrical and Electronic System Engineering



卒業おめでとうございます

電気電子システム工学科 5年担任 小泉 康一
卒業した5年生の学生諸君、卒業おめでとうございます。

4年次に高専でもはじめて遠隔の授業形式が導入されました。この形式での学習には、自分との戦いが必須だったかと思います。参加さえしていれば誰も見ておらずに実際は何をしても他人にそれがわかることはありません。ここで他人の目がなかったとしても、自分でやるべきことをきちんとこなし、満足のいく成果を得られた学生であれば、楽な方向に流されず、自分の甘さに打ち勝てるような精神を育てられたのではと思います。特に就職の道を進む学生において、学生時代に手抜きをしていた学生には必ずしっぺ返しが待っています。それが重大事故に結びつくことがないように祈っていますが、気持ちを入れ替えて進路先で頑張ってください。

最後に、困ったときは人に相談して、悩みをためないことです。

5年間

電気電子システム工学科 5年 坂本 海斗
福島高専では、小学校の次に長い5年間という時間を過ごしました。終わってみれば短く感じますが、やはり5年というのは長い時間です。振り返ると、いろいろな思い出が頭に浮かんできます。学校全体が大いに盛り上がる体育祭、クラスメイトと協力して1つの映像作品を創り上げる文化祭などがあったおかげで、私たちが絆を深めるのに時間はかかりませんでした。部活動では、1～5年生と一緒に活動するという他の高校ではできないことを経験させていただきました。上級生から優しいアドバイスをもらったり、時には厳しく指導していただいたり、人間的にも大きく成長できたような気がしています。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方、5年間本当にお世話になりました。進学、就職と別々の道を歩いていく私たちですが、卒業後もどうか温かく見守ってください。そして、時には変わらぬご指導をよろしくお願い致します。

化学・バイオ工学科

Applied Chemistry and Biochemistry



鼻向けの言葉“七転八起”

化学・バイオ工学科 5年担任 青木 寿博
卒業生がこれから乗る馬に対して、どの方向に鼻向けてやるか、正直難しい。精密に考えれば一人一人違いただろう。個人の違いだけでなく、環境や社会背景等によっても変わってくるはずだ。いや、しかし、大まかな共通の方向はあるはずだ。卒業生には共通、自分との違い、過去・現在・未来、不変の法則、せめてこの3つにあてはまるのがないか探してみた。

思いついたのは、不変の法則としては、“時間の矢”。時間は決して逆戻りしない。卒業生にはあるが自分にはないものは、“若さ”、年齢は絶対逆転しない。違う点もあるが共通点もある。“今が人生で一番若い”は、年齢によらず全ての人に当てはまる。

今、若いうちに、失敗を恐れず何回も転んでは何かを拾って起き上がり、同時に怪我をしない転び方“受け身”を身に付けてもらいたい。そうすれば、年を重ねてからも前向きでいられるに違いない。

5年間の感謝

化学・バイオ工学科 5年 石橋 凜
楽しかった福島高専での生活も終わりが近づき、ついに卒業を迎えることに時間の流れの早さを感じ、私はとても驚いています。

この5年間で先生方にはとてもお世話になりました。特に4、5年生の時には、遠隔授業となって試験や実験、卒業研究が満足にできないことがありました。そんな時、先生方に助けていただき、学習や研究を継続することができました。

また、学級や部活をとおしてたくさんの人と関わり、とても充実した時間でした。クラスメイトの皆とは苦楽を共にし、いろんなことを話しました。最後には、互いに切磋琢磨し合える仲間になれたことを、本当にうれしく思います。高専での思い出・学びを胸に、これからの新しい生活でも頑張っていきたいと思います。

最後に、今までご指導いただいた布施先生や青木先生をはじめとする諸先生方、私たちを支えてくれた家族、そして学びを共にした友人に改めて感謝申し上げます。5年間本当にありがとうございました。

都市システム工学科

Civil and Environmental Engineering



みなさんの「せ・ん・た・く」

都市システム工学科 5年担任 江本 久雄
みなさんは、進学や就職といった進路を「選択」しました。これから、新しい道に進みます。私の「選択」についてお話します。10年ぐらい前に大学で助手としてアカデミックの世界で食べていくことを「選択」しました。このとき既に36才です。同世代は現役バリバリです。さらに、この世界は任期付のポストを渡り歩くような世界です。案の定、仕事を失います。その後、ご縁があり2016年にこちらに来て、その後、みなさんに会いました。

ここでは、研究者として、6年間ですが研究指導も含めある一定の成果が得られたと自負しています。問題は担任業務です。生活指導について、まず、私が指導されそうです。すみません。次に、進路指導です。さすがに、路頭に迷わず訳にいかないと「考え」、なりふり構わず、経験のある先生方に「質問」したり、調べたりして「行動」しました。その結果は、みなさんに20年後、30年後また会ったときに分かります。楽しみです。

最後に、私の「選択」をよく表している言葉がありました。イギリスの第71代首相、マーガレット・サッチャー氏の言葉を最後に贈ります。

「“考え”は言葉となり、“言葉”は行動となり、“行動”は習慣となり、“習慣”は人格となり、“人格”は運命となる。」

ご卒業おめでとう。

感謝

都市システム工学科 5年 二瓶 洋哉

私はこの学校での5年間を通して、感謝したい人がたくさんいます。

まずは、担任だった宮澤先生と江本先生、都市システム工学科の先生方、校長先生をはじめ諸先生方です。未熟だった私たちは勉強のことから将来役立つこと等多くの学びを頂きました。まだ一人前にはほど遠いですが、今後とも私たちを温かく見守っててください。

次はクラスのみんな。山ほどあった課題や定期試験を協力して乗り越え、何気ない会話で笑い、体育祭ではクラス一丸となって盛り上がり優勝の喜びを分かち合い、4年時の学校祭では最高のクラスムービーを仕上げてもらったこと…。頼りない委員長でしたがみんなが支えてくれたおかげで最後までやりきることができました。

最後は、20年間見守って育ててくれた家族。この先も大きな壁に直面することがあると思いますが、この学校で培った生きる術を思い出し乗り越えていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

ビジネスコミュニケーション学科

Department of Business Communication



卒業するみなさんに

ビジネスコミュニケーション学科 5年担任 湯川 崇
ご卒業おめでとうございます。

みなさんが高専で学んだこの5年間は激動の期間でした。平成が令和に変わり、国内外で多くのことが起こりました。特に2年前に発生した新型コロナウイルスは世界中に拡がり、世の中のいろいろな仕組みが大きく変わり、5年前には想像もしなかった日常になってしまいました。みなさんも思ったような学生生活を送れず、4・5年生での授業、インターンシップ、就職活動等を実施するにあたって大変な苦労をしたのではないかと思います。

これからも、人類が経験したことがない予想もつかないことが起きるでしょう。どのような困難が待ち受けているかわかりませんが、高専で身につけた知識や経験を武器に、自分の持ち味を存分に発揮して乗り越えていけるものと信じています。

4月からは新しい生活が始まります。卒業後の進路は異なりますが、これからも研さんを続けてそれぞれの分野で活躍することを期待しています。

感謝の5年間

ビジネスコミュニケーション学科 5年 引地 良偉夢

気づけば、高専生活5年目を迎え、無事に卒業を迎えることが出来ました。満開の桜に囲まれながら制服を着ていた頃を懐かしく思います。みんな、見た目も中身もすっかり大人になりました…。

入学当初は、期待と不安が入り混じっていた高専生活でしたが、あっという間に過ぎていきました。初めての文化祭や体育祭に遠足と充実していた1・2年生。毎日の8限授業や微積分、プログラミングなどの課題に追われた3年生。コロナでリモート授業が中心だった4年生。卒論・就職・進学に追われながらも、最後の友人との時間を大切に過ごした5年生。高専生活を楽しく過ごせたのも、辛いことを乗り越えられたのも全てクラスの仲間のおかげです。クラスのみんなへ。5年間、たくさんの思い出をありがとう！辛いことがあってもこの5年間の思い出して頑張っていこうね。また、必ずみんなで集まろう！そして、福島高専、福島高専の先生方、5年間ありがとうございました。

生産・情報システム工学コース



修了おめでとうございます

生産・情報システム工学コース
コース長 植 英 規

さらなる学びと研究を求めて過ごした専攻科の2年間は、世界中で当たり前のことが当たり前でなくなった期間でもありました。自宅でひとり遠隔授業を受けたことや、十分に時間をかけた実験ができなかったことなど、みなさんは多くの苦労を経て修了を迎えたと思います。せっかくの学生生活なのに、友だちと旅行に行くこともできなかったと思っている人もいるかもしれませんね。

ただ、そのような中であって福島高専専攻科で過ごした時間はみなさんを大きく成長させたことと思います。学びとは学校で授業を受けること（だけ）ではなく、自分で考え行動していく中にこそあると思います。本科と合わせた7年間で積み上げた学びは、今後、社会に出たみなさんにとって大きな力になってくれることでしょう。そして、学びは学生生活の中で完結するものではありません。これからもよく考え、悩みながらも学びを積み上げていってください。

修了おめでとうございます。

学生生活を振り返って

生産・情報システム工学コース
2年 上野台 祐 太

冬が終わり、7年間の学生生活が終わりを迎え、清々しさとともに母校を離れる悲しさを感じています。

専攻科では、他学科の学生・先生方と関わる機会が増えました。今までの専門であった機械工学分野以外についても学び、新しい知識について触れることが多くなりました。また、他学科も交えたブレインストーミング等を行うことで社会人になれば必要であろう話し合いの経験をそこで得ることもできました。研究に関しても所属学科以外の先生方から御意見をいただくこともあり、自分の研究を多角的な視点で振り返ることも大事であると考えられる機会になりました。

研究室のメンバーや指導教員の先生にも恵まれ、学業としても人間的にも多くの経験をさせていただき、非常に実りのある学生生活であったと感じています。

これまで7年間にわたり学業・研究を支えていただき、ご指導いただいた先生方への心からの感謝をもって、お礼の言葉とさせていただきます。

専攻科産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース



専攻科修了おめでとうございます

エネルギーシステム工学コース
コース長 鄭 耀 陽

皆さん、専攻科修了おめでとうございます。

福島高専本科5年間、専攻科2年間お疲れ様でした。人生の成長や世界観の形成に大切な7年間で福島高専で過ごし、きっとたくさんの知識を得ることができ、たくさんの思い出を作ることができたと思います。

皆さんが専攻科に在籍した2年間は、新型コロナウイルスが世界を席巻し、日本の教育機関も大きな影響を受けた非常に特殊な2年間でした。何度も登校停止になり、オンライン講義への切り替えを余儀なくされました。特に、実験・実習科目や特別研究に大きな影響を及ぼしたにも関わらず、皆さんは知恵を出し合い、教職員と一体になって困難な局面を乗り越え、無事に修了したことを嬉しく思います。

皆さんはこれからそれぞれの道に進みます。進学する方は、知識を更に深めて勉学に励んでください。就職する方は、社会人として謙虚に、先輩や上司からノウハウを吸収しつつ、自分の会社に貢献できる人材になってください。

7年分の御礼

エネルギーシステム工学コース
2年 湊 宥 貴

7年間という、小学校よりも長い高専での生活が終わりを迎えようとしています。専攻科生として過ごした2年間は、コロナウイルスの影響で研究活動や海外渡航などが制限され、思い描いた高専生活とは少し違ったものでした。しかし、制限下であっても、私たちは多くのことに挑戦し、充実した2年間になりました。

本科から専攻科修了まで生き抜いてこれたのは、高専で出会った最高の友人のおかげです。レポート地獄や課題など、厳しい局面も助け合うことで乗り切ってきました。周りに恵まれて過ごした7年間の思い出は、間違いなく私の財産の一つです。私個人としては、経験豊富な指導教員の下で研究活動に携わり、多くの知見を得ることができました。来年度以降も大学院にて研究活動を続けられることを嬉しく思います。

最後になりますが、高専で出会うことができた全ての先生方と友人に感謝申し上げると共に、更なるご活躍をお祈り申し上げます。お世話になりました。

化学・バイオ工学コース



贈る言葉

化学・バイオ工学コース
コース長 柴田 公彦

専攻科修了おめでとうございます。

本科5年間、専攻科2年間、合わせて7年間過ごした学び舎から、いよいよ飛び立つときがきました。今、皆さんは新しい人生のスタートへ期待を膨らませつつ、その一方で不安も抱いていることと思います。何事も最初が肝心です。分からないことを何でもすぐ聞くことができるのは新人の特権です。早く新しい生活に慣れて良いスタートダッシュを決めてほしいと願っています。

皆さんのこれからの人生は、福島高専の7年間とは比べものにならないほど長く、いろいろな問題や課題、今回の新型コロナのような予期せぬことも待ち受けていることでしょう。しかし、福島高専の7年間の様々な経験や努力が、これからの皆さんの人生において結実し、やがて大輪の花を咲かす日が来ると信じています。

最後に、健康にはくれぐれも留意してください。皆さんの活躍を期待しています。

人生の3分の1

化学・バイオ工学コース
2年 福原 至音

本科卒業時には人生の4分の1を福島高専で過ごしたと考えていましたが、気づけばほぼ人生の3分の1を同じ学び舎で過ごしていたことに驚いています。その7年間にわたる日々も終わりを迎えました。22歳の3分の1を過ごした時間は、多くのことを学び、経験することのできた密度の濃いものでした。クラスメイトや先生方、先輩、後輩に恵まれ、周りに支えられながら、常に笑顔が尽きない7年間を過ごすことができとても幸せです。

勉強、部活動、研究活動すべての経験が今の自分を作っていると思うと、決して短くはない期間ですが、充実したあっという間の7年だったんだなと今思います。

卒業後は、福島高専で学び、培った貴重な経験を活かし、モノづくりに真摯に向き合っていきたいと思います。最後に、今までお世話になりました諸先生方、友人、そして両親に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

専攻科産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース



たくさんの思い出を経験に、楽しみはその先に

社会環境システム工学コース
コース長 齊藤 充弘

みなさん、専攻科の修了おめでとう！

思えば、2年前の本科卒業を迎えた時期に、まだよくわからない新型コロナウイルスの感染拡大が徐々に広がり、不安を募らせ始めると卒業式が中止になってしまいました。学科恒例の研究室対抗ボウリング大会や謝恩会なども中止となり、5年間一生懸命取り組んできたことをねぎらい、高専の卒業を一緒にお祝いすることもできませんでした。

専攻科入学後も状況はなかなか好転せず登校することができない日々もあり、さまざまな制限があるなかで、学業をはじめ学生生活を送るうえではいつも以上の工夫と協力が求められました。限られた場所や時間で勉強や研究に取り組み、学生生活を充実させるためには、自ら考えなくてはならない機会が多かったと思います。また、みんなで一緒に仲良く協力し合う“シビル魂”を発揮する機会を多く奪われるなかでも、研究室やコース単位で工夫して協力し合ってこの日を迎えることができました。この大変な思い、がんばりを単なる思い出として残していくのではなく、経験に変えて、この先の進路においても毎日元気に楽しく生活してってください。そして、この状況が落ち着いた頃にみんなで学校に来てもらい、実現することができなかった5年間、7年間の高専生活をねぎらい、卒業・修了をともにお祝いしましょう！そのことを楽しみに、私もまた一日一日を大切に生活していきます。

7年間ありがとう

社会環境システム工学コース
2年 渡邊 夏実

幼少期から自然の中で遊ぶことが好きで、将来は環境に携わる仕事がしたいと思い、建設環境工学科（現：都市システム工学科）へ入学しました。高専は1年生から専門分野を学ぶということもあり、同志が集まりやすく、打ち解けるのも時間ばかりませんでした。そんなクラスメイトは勉強や研究だけでなく、行事ごとにも真剣に取り組むような集まりで、その一員になれたことにとても感謝しています。

学生生活では勉学をはじめ、文化祭の実行委員や留学、古民家再生プロジェクトなど多くのことにも挑戦しました。その結果、一つの目標にしていた環境に携わる仕事に就くことができ、どんな場面でも手厚く支えてくださった先生方に感謝申し上げます。

4月には7年間在学していた学校を離れ、新しい挑戦が始まりますが、高専で得た知識を社会に活かしていきたいです。そして、学生生活で築いた友人や先生方との関係をこれからも大切に過ごしていきます。

専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース



新たな時代への船出に向けて

ビジネスコミュニケーション学コース
コース長 湯川 崇

専攻科ご修了おめでとうございます。

本科の卒業前に現れた新型コロナウイルスがあっという間に世界中に広がり、残念ながらこの2年間は人類の歴史に残る大変な2年間になってしまいました。世の中の全てが変わってしまい、授業、インターンシップ、就職活動と、いずれも思うように活動ができず、苦労して勉学に励んでこられたのではないのでしょうか。

今後も先の読めない事態が起きることが予想されます。福島高専の教員はみな面倒見がよく、困ったときには親身に相談にのってくれたと思います。今後は、困難に直面しても周囲に頼る人がいないことがあるかもしれません。どんなときでも本科と専攻科で身につけた知識と経験を武器に、困難に負けずにそれぞれの持ち味を存分に発揮して乗り越えて行くことを願っています。

4月からは新しい生活が始まります。修了後の進路は異なりますが、これからも研さんを続けてそれぞれの分野で活躍することを期待しています。

高専生活とは

ビジネスコミュニケーション学コース
2年 大塚 知里

私の高専生活は、常に落ち着きがありませんでした。部活動は連合チームで、放課後は毎日平商業高校で練習しました。小学校の友人とチームメイトになったのも良い思い出です。夏休みにはスペインに留学しました。サッカースタジアムで白馬に乗った警察官を見たことが忘れられません。復興関係のインターンシップで岩手県にも行きました。活動中にチーム全員インフルエンザになり、大喧嘩したことを覚えています。他にも、学生団体の活動や夏祭り運営など、思い返せば全く高専にいないような気もしますが、高専という環境だからこそできたことだと思います。両親も先生方も、何をするにも「あなたの好きにするのが一番」というスタンスなので、目一杯好きにさせていただきました。大変お世話になりました。

学校内外関わらず、出会いも別れもたくさんありましたが、まぶたを閉じればいつでも、笑顔のみんなに会える気がします。7年間、本当にありがとうございました。

令和3年度 卒業生・修了生の進路状況と キャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育担当責任者 松尾 忠利

令和3年度の本科5年生および専攻科2年生の進路決定状況を下表に示します。本科5年生の進路状況は、例年と同様、進学と就職がほぼ半々でした。昨年度は新型コロナウイルスの影響で減少した就職希望者に対する求人数は、今年度は例年並みの26倍程度に回復しました。しかし、大企業への就職に関しては、まだまだ狭き門となっています。専攻科2年生では、約27%の学生が大学院に進学しました。なお年度末には、卒業生・修了生のほぼ全員の進路が決定する見込みです。

キャリア教育支援室として、学内での公務員模擬試験、就職ガイダンス、面接等指導講習会の実施（オンライン面談についての対策）や学外での「高専生のための仕事・業界研究セミナー」に参加する学生の支援を行いました。また、キャリア教育担当として多くの大学や企業の担当者と面談する機会があり、その度に「興味のある学生がいる場合は、是非ご推薦をお願いします。」と言われる、社会からの高専生の評価の高さを改めて認識しました。

これは、基礎的・専門的な学力が高いことに加えて、何事にも真面目に取り組む素直な性格、協調性やコミュニケーション能力の高さ等、仕事を遂行する上での資質の高さが評価されているのだと思います。一方で、福島高専学生の採用に積極的な地元企業と県外を目指し就職活動を行っている学生との間には、ギャップが感じられることもあります。また、経団連の就職協定廃止に伴い、企業による求人活動の開始時期が早まることが予想されるため、学生への就職支援活動の時期や内容を検討する必要があります。さらに、遠隔授業期間のような学生の登校が制限された中でも、求人票の閲覧ができるようにする方法等、有効なキャリア支援の方策を検討する予定です。

COVID-19の多様なウイルス変異株がまん延して現況において、卒業生の活躍によって築かれ、高い評価に起因する現在の良好な進路状況を保つべく、キャリア教育支援室として学生の進路活動がスムーズに進むように来年度以降も多方面より支援を継続します。

本 科 生 の 進 路（令和4年3月卒業）

（ ）は女子学生

区 分	機械システム 工学科	電気電子 システム工学科	化学・バイオ 工学科	都市システム 工学科	ビジネスコミュニ ケーション学科	計
卒 業 者 数	36(2)	32(1)	36(13)	40(16)	37(30)	181(62)
進 学 者 数	21(2)	13(1)	18(4)	20(7)	15(12)	87(26)
就 職 者 数	13(0)	18(0)	18(9)	20(9)	18(17)	87(35)
そ の 他	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	4(1)	7(1)

専 攻 科 生 の 進 路（令和4年3月修了）

（ ）は女子学生

区 分	産 業 技 術 シ ス テ ム 工 学 専 攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
修 了 者 数	38(10)	5(5)	43(15)
進 学 者 数	11(4)	1(1)	12(5)
就 職 者 数	26(6)	4(4)	30(10)
そ の 他	1(0)	0(0)	1(0)



令和3年度の学生会活動を振り返って

今年度は、コロナの影響により学校での活動が制限されており、学生会のイベントが思うようにできませんでした。福島高専の一大イベントである「磐陽祭」は私が入学した年以来、完全な形で開催できていません。今年度も開催できず、イルミネーション点灯やショートムービーコンテストなどの小規模の代替企画を実施するという形になってしまいました。この状況にも負けず、少しでも学生生活が活気づくように、学生会ではオンラインを利用して部活動紹介や評議会を行ったり、他高専の活動を参考に自分たちの活動に取り入れようと思いました。しかし、コロナによる学校閉鎖があり、満足のいく活動を行うことができませんでした。学生会長としては今年度までですが、来年度も学生会の一員として、厳しい状況下であっても学生が羽を伸ばして学校生活を送れるように少しでも力になればと思います。皆様のこれからの学生生活が充実したものになることを願い、振り返りの言葉とさせていただきます。

機械システム工学科 4年 石 井 拓 翔

令和4年度学生会執行部役員一覧

役 職	学 科 学 年	氏 名
会 長	ビジネスコミュニケーション学科 3年	西 山 史 栞
副 会 長	都市システム工学科 3年	豊 増 汰 一
会 計	機械システム工学科 4年	石 井 拓 翔
	都市システム工学科 3年	河 内 琉 生
	化学・バイオ工学科 1年	會 田 さくら
広報・渉外	機械システム工学科 2年	高 橋 那 南
監 査	都市システム工学科 3年	鈴 木 悠 斗
	化学・バイオ工学科 1年	船 水 隆 太 郎
学生会担当主事補		柴 田 公 彦

※学年は令和3年度

第56回全国高専体育大会結果

■ソフトテニス

八戸高専主管（東運動公園テニスコート）

男子団体戦		予選リーグ敗退
男子ダブルス	猪狩 浩葵 (1E)	
	橋本 大知 (2T)	2 回戦敗退
女子ダブルス	大和田夏美 (5T)	
	猪狩 澄玲 (5T)	2 回戦敗退

■水泳（男子）

鶴岡高専主管（秋田県立総合プール）

タイム決勝		
200m 平泳ぎ	八木まなと (2M)	第21位
200m バタフライ	渡邊 瑞樹 (2M)	第11位

■水泳（女子）

鶴岡高専主管（秋田県立総合プール）

タイム決勝		
100m 自由形	伊藤 波 (2C)	第10位
100m 背泳ぎ	伊藤 波 (2C)	第 6 位

■バドミントン（男子）

一関高専主管（一関市総合体育館）

団体戦		2 回戦敗退
シングルス	薄葉 健大 (5M)	2 回戦敗退
ダブルス	薄葉 健大 (5M)	
	佐々木 笙 (5C)	初戦敗退

■バドミントン（女子）

一関高専主管（一関市総合体育館）

団体戦		第 3 位
シングルス	根本 真央 (5C)	2 回戦敗退
ダブルス	草野 優夏 (5B)	
	赤塚 優花 (5B)	2 回戦敗退

■サッカー

福島高専主管（Jヴィレッジ）

福島 0 - 3 徳山	初戦敗退
-------------	------

令和 3 年度福島県高等学校新人体育大会結果

■ソフトテニス

男子団体戦		初戦敗退
女子団体戦		初戦敗退
男子個人戦	橋本 大知 (2T)	
	猪狩 浩葵 (1E)	ベスト16

■空手道

男子個人形	生田目 迅 (1M)	初戦敗退
〃	阿部 唄大 (1B)	初戦敗退
男子個人組手	生田目 迅 (1M)	初戦敗退
〃	阿部 唄大 (1B)	初戦敗退

■卓球

女子シングルス	岡田 紗季 (1T)	ベスト32
---------	------------	-------

■バドミントン

男子シングルス	柴宮 颯 (2E)	初戦敗退
---------	-----------	------

■バレーボール

男子	福島高専 0 - 2 清陵情報
----	-----------------

各種大会等の結果

■バスケットボール

◎令和 3 年度東北地区高等専門学校バスケットボール新人大会

男子	福島 25-33 仙台広瀬
	福島 22-42 仙台名取
	福島 26-30 八戸
女子	福島 24-26 八戸
	福島 19-40 仙台名取
	福島 16-41 仙台名取

■ソフトテニス

◎第51回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

男子団体戦		初戦敗退
男子個人戦	橋本 大知 (2T)	
	猪狩 浩葵 (1E)	ベスト16

■将棋部

◎第30回全国高等学校文化連盟将棋新人大会福島県大会

小高 寧生 (2C)	初戦敗退
------------	------

◎第28回全国高等専門学校将棋大会

団体戦		初戦敗退
個人戦	遠藤 雅明 (5C)	ベスト32
	柳沼 真人 (4E)	予選敗退
	齋藤 剛瑠 (4C)	ベスト16
	大塚 章最 (1C)	ベスト32

連合会主催のコンテスト等出場結果

■都市デザイン研究会

◎第18回全国高等専門学校デザインコンペティション2021 in 呉
構造デザイン部門 第26位

■ロボット技術研究会・ミニ研究

◎第34回アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2021東北地区大会

- ・Aチーム「リスペクト」 ロボット技術研究会 東京エレクトロン株式会社 特別賞
- ・Bチーム「氷上演舞」 ロボット技術研究会・ミニ研究 アイデア賞

■ソフトウェア研究会

◎第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

- 競技部門：1 回戦敗者復活戦敗退
- 岸本 篤 (4E)・佐藤 龍熙 (4E)・高萩 諒 (4E)

表彰

●専攻科学業優秀賞

産業技術システム工学専攻	
生産・情報システム工学コース2年	早川 天人
エネルギーシステム工学コース2年	今野 裕斗
化学・バイオ工学コース2年	山内 喬矢
社会環境システム工学コース2年	山下 大輝
ビジネスコミュニケーション学専攻	
ビジネスコミュニケーション学コース2年	大塚 知里

●専攻科学研究活動優秀賞

機械工学分野	
エネルギーシステム工学コース2年	石川 育輝
電気電子工学分野	
生産・情報システム工学コース2年	齋藤 拓夢
応用化学分野	
化学・バイオ工学コース2年	福原 至音
土木工学分野	
社会環境システム工学コース2年	馬場 那仰

●特別表彰

【TOEIC成績900点以上取得者】

機械システム工学科4年	Andy William
電気電子システム工学科4年	Goh Pei Jin
機械システム工学科3年	Faheema Hasya Binti Hamizi
ビジネスコミュニケーション学科5年	阿部 彩音

上記に匹敵する全国レベルの各賞受賞など

【パソコン甲子園2021 モバイル部門 ベストデザイン賞】

ビジネスコミュニケーション学科3年	浅川 胡桃
ビジネスコミュニケーション学科3年	村上 紗彩
ビジネスコミュニケーション学科3年	山下 ゆき

【デジタル技術検定 文部科学大臣賞】

電気電子システム工学科4年	稲川 恭也
---------------	-------

●学会表彰

社団法人日本機械学会 島山賞	
機械システム工学科5年	薄葉 健大
電子情報通信学会東北支部優秀学生賞	
電気電子システム工学科5年	真船 真幸
電気学会東北支部優秀学生賞	
電気電子システム工学科5年	野崎 大地
日本化学会 東北支部長賞	
化学・バイオ工学科5年	小林 美樹
全国高専土木工学会 近藤賞	
都市システム工学科5年	今井 晴子

●福島高専協力会長賞

機械システム工学科5年	猪狩 涼
	吉田 幸輝
電気電子システム工学科5年	鈴木 琉斗
	坂本 海斗
化学・バイオ工学科5年	北山 友香
	吉原 知哉
都市システム工学科5年	大田 涼介
	緑川 愛里
ビジネスコミュニケーション学科5年	佐久間香那
	引地良偉夢

TOPICS

「第56回全国高等専門学校体育大会 兼 第54回全国高等専門学校体育大会サッカー選手権大会」を開催！

福島高専は、12月14日（火）から17日（金）の4日間、双葉郡檜葉町の「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」で「第56回全国高等専門学校体育大会 兼 第54回全国高等専門学校体育大会サッカー選手権大会」を開催しました。

サッカー競技は、第3回全国高等専門学校体育大会から始まり、今回で第54回を数え、全国9地区から選抜された16校が頂点を目指しました。

今回の大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、開催日程が本来の8月から12月に延期となったものの、幸いなことに、昨今の感染状況の落ち着きから有観客で大会を開催することができました。こうした状況の中、選手達はフィールド内で懸命にボールを追いかけ、勝利を目指して白熱した試合を展開しました。

本校は一回戦で中国地区A代表の徳山高専と対戦し、残念ながら0-3で敗退しました。応援ありがとうございました。



高専ロボコン東北地区大会で、福島高専Aチームが東京エレクトロン株式会社特別賞、Bチームがアイデア賞を受賞

第34回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021東北地区大会が、11月7日（日）にオンラインで開催され、福島高専Aチームが東京エレクトロン株式会社特別賞、Bチームがアイデア賞を受賞しました。

今年の競技課題は「超絶機巧（すごロボ）」で、「自分たちがこだわってきた技術、挑戦してみたい新しい技（ワザ）を徹底的に追求し、「すごい！技のロボット」を製作する」というものでした。

本校から出場した2チームは、ともに低学年生だけで構成され、昨年以上に活動時間が制限された中での大会参加でしたが、困難な環境の中で、できる限りの努力をしました。今回受賞した本校のチームは以下のとおりです。

●Aチーム（ロボット技術研究会所属）

出場メンバー：斎野 朝日（電気電子システム工学科3年）
仲井 洸貴（機械システム工学科3年）
塚田愛由希（機械システム工学科2年）

指導教員：小出 瑞康（機械システム工学科 准教授）

プロジェクト名：リスペクト

パフォーマンス：森を駆け回るリスとリスの天敵として蛇をロボットで再現

結 果：東京エレクトロン株式会社 特別賞



福島高専Aチームとスタッフ学生



Aチーム製作のリスのロボットと蛇のロボット

●Bチーム（ロボット技術研究会所属）

出場メンバー：小林 一慶（電気電子システム工学科2年）
佐久間広太（電気電子システム工学科2年）
渡邊 巧望（機械システム工学科2年）

指導教員：天野 仁司（化学・バイオ工学科 教授）

プロジェクト名：氷上演舞

パフォーマンス：自動演奏ロボットの奏でる「トルコ行進曲（モーツァルト）」に合わせた、接地車輪に動力を持たないロボット2台によるフィギュアスケート（アイスダンス）

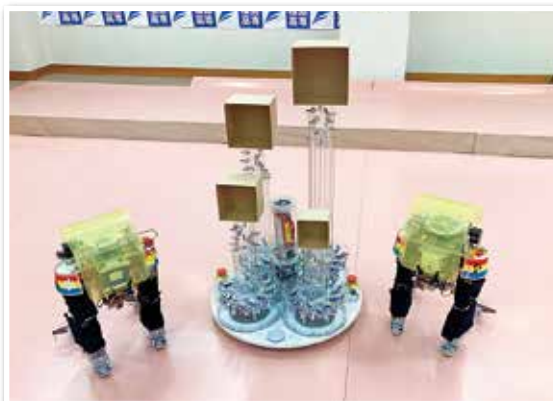
結 果：アイデア賞



福島高専Bチームとスタッフ学生



競技の様子



Bチーム製作のスケートロボットと自動演奏ロボット

パソコン甲子園2021 モバイル部門にて、ベストデザイン賞を受賞

11月14日（日）、第19回全国高等学校パソコンコンクール「パソコン甲子園2021」モバイル部門本選に本校ビジネスコミュニケーション学科3年生3人で構成されたチーム「くるくるパーマ工房」が出場し、ベストデザイン賞を受賞しました。

本コンクールのモバイル部門は、Android搭載のスマートフォンを対象とし、「これからのスクールライフ～新しい放課後～」という競技テーマで、「ニューノーマル（新しい生活様式）」の下での新しい活動の仕組みや活動のためのツールを制作するというものでした。

同チームは、仮想空間で海外留学を体験できるアプリ「ASPA（アフタースクールパスポート）」を開発しました。アプリのユーザーは、アプリケーション内でアバターを自由に選び、海外のユーザーと交流することができ、各種言語のテキスト化・自動翻訳などの機能を設けたほか、世界各地の観光地を散歩できるなどの機能も実装しました。

今回受賞した本校学生のチームは以下の通りです。

チー ム 名：くるくるパーマ工房

メ ン バ ー：村上 紗彩（ビジネスコミュニケーション学科3年）

山下 ゆき（ビジネスコミュニケーション学科3年）

浅川 胡桃（ビジネスコミュニケーション学科3年）

ア プ リ 名：ASPA（アフタースクールパスポート）

結 果：ベストデザイン賞



いわき市医療センターとの連携協力協定を締結

福島高専は、11月22日（月）、いわき市医療センター（以下、医療センター）と連携協力協定を締結しました。この協定は、従来、本校が医療センター附属の看護学院へ講師を派遣する形で支援していた取り組みを、医療センターそのものを含めた相互支援の連携協力協定に発展させたものです。協定式では、山下校長と、新谷史明いわき市病院事業管理者が協定書に署名し、教育・研究・医療の分野で活躍する両機関の協働によって継続的な地域貢献が果たせるよう、共に人材育成、産業振興等に取り組むことを誓いました。

今後は、医療センターから本校へ、学校医、カウンセラーの定期的な派遣及び学生・教員に向けた講習会の開催、本校から医療センター所管の看護学院への講師派遣といった取り組みが予定されています。



協定締結後の記念撮影（中央（左）山下校長、（右）新谷いわき市病院事業管理者）

第6回廃炉創造ロボコンを開催

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島工業高等専門学校校長）が主催する「第6回廃炉創造ロボコン」が12月11日（土）、日本原子力研究開発機構楡葉遠隔技術開発センターを会場に実施されました。

大会には全国の国公立高専12校13チームが参加し、最優秀賞の文部科学大臣賞は小山高専が受賞しました。

この廃炉創造ロボコンは、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に、困難な課題の解決に挑むことで創造性の涵養に貢献すること、また、課題発見能力、課題解決能力を養うことを目的として平成28年度から開催されています。

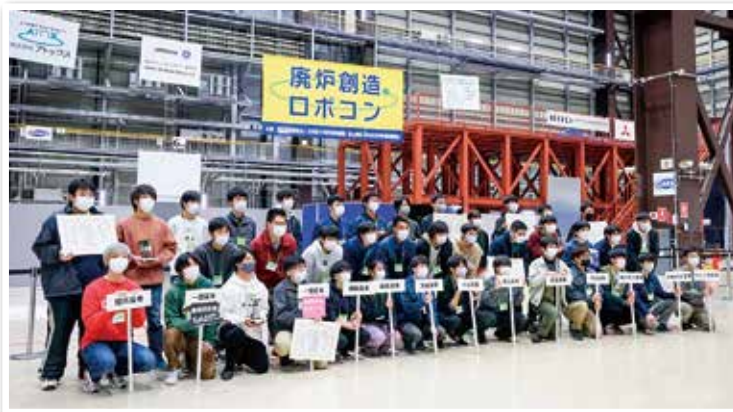
今大会では、原子炉建屋内における高線量エリアの遠隔高所除染を想定した競技が実施されました。課題は、ロボットが壁までの指示された経路を通り、汚染された高さ2700mm、幅1000mmの壁の上部を除染するというものでした。実際の除染は壁の表面を削るなどして放射性物質を取り除きますが、本競技では指定のペンで壁に設置された模造紙を塗り潰すことで作業の精度が評価され、10分間の実演によって競われました。

最優秀賞の文部科学大臣賞に輝いた小山高専は、広い除染面積を達成し、ボックス型に収めてコンパクトで完成度の高いロボットが評価され、生川浩史文部科学省研究開発局長から賞状と副賞のトロフィーを授与されました。

なお、当日は、新妻秀規復興副大臣、増子輝彦参議院議員等の来賓をはじめ、一般観覧者、廃炉創造ロボコン関係者等、約200人が来場し、テレビ、新聞等の報道機関10社から取材があり、本大会への関心の高さが伺えました。



競技の様子



大会終了後の集合写真

デジタル技術検定試験で 文部科学大臣賞（団体・個人）を受賞しました

公益財団法人国際文化カレッジ主催のデジタル技術検定試験（文部科学省後援検定）において、令和3年度の成績優秀合格者に贈られる個人賞各賞を本校の学生8名が受賞しました。

そのうち、電気電子システム工学科4年の稲川恭也さんは「文部科学大臣賞（個人賞）」の受賞です。また、団体として多くの学生が優秀な成績を収めたことが評価され、本校が「文部科学大臣賞（団体賞）」を受賞しました。

同試験は、情報処理・制御に関する技能や知識をデジタル技術という観点から評価する検定試験です。文部科学省後援ということもあり、多くの企業で高く評価されています。今年度は、本校の電気電子システム工学科3年生及び4年生55名が受験し、9割以上の学生が合格しました。

【受賞一覧】

<団体賞>

○文部科学大臣賞 福島工業高等専門学校

<個人賞>

○文部科学大臣賞 稲川 恭也（電気電子システム工学科4年）・二級制御

○優秀賞 稲川 竜也（電気電子システム工学科4年）・二級制御

佐藤 綾亮（電気電子システム工学科3年）・三級

村松 蒼大（電気電子システム工学科3年）・三級

○優良賞 松本 蒼矢（電気電子システム工学科4年）・二級制御

吉野 優太（電気電子システム工学科4年）・二級制御

浅見 圭祐（電気電子システム工学科3年）・三級

大平 悠太（電気電子システム工学科3年）・三級



文部科学大臣賞（個人賞）を受賞した稲川恭也さん

「SDGs Webinar 2021—挑戦する心再起動 ～新時代の持続可能な地域社会づくり～」を開催

本校では、11月6日（土）から12月18日（土）にかけて「SDGs Webinar 2021」を長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学とともに開催しました。

このSDGs Webinarでは、福島高専生及び技科大生を対象に、「アントレプレナーシップ（起業家精神）」をテーマにしたオンライン形式のワークショップが5回実施されました。12名の参加学生は、ワークショップに参加した後、各グループにわかれてSDGsを取り入れたビジネスモデルの作成に取り組み、12月18日（土）の最終発表会で成果を発表しました。



最終発表会の様子（オンライン）

講師には、シリコンバレーで起業した日本人講師3名と長岡・豊橋両技科大の教授陣、豊橋技科大学院に在籍しながら起業した学生をお招きし、「起業にあたってのアイデアの見つけ方・ブラッシュアップの仕方・マーケティング」の3ステップやチャレンジし続けることの大切さを学びました。また、SDGsの指標を掘り下げて考えるというワークショップを実施するなど、参加学生はSDGsについて大いに理解を深めました。

閉式の挨拶では、本校山下治校長から講師陣に謝辞があり、参加した学生には「Webinarを通じてSDGsという人類の課題を認識し、課題解決能力、チームによるプロジェクト能力、プレゼンテーション能力を刺激できたと思います。刺激を受けた能力をブラッシュアップして、世界の変化に柔軟に対応しグローバルな人材になることを期待しています。」と述べました。

本校では、SDGs Webinarを2年連続で主催しており、来年度も開催予定です。

国際会議Sustainability Seminar 2021 （サステナビリティ セミナー 2021）を共催

福島高専は、12月1日（水）に国際会議Sustainability Seminar 2021（サステナビリティ セミナー 2021）を共催し、山下校長が開会式でスピーチを行いました。

サステナビリティ セミナーとは、本校が協力意向書を取り交わしているマレーシアのサバ大学が主として開催していたサステナブルキャンパスに関する国際学会Regional Conference on Campus Sustainability（RCCS；キャンパス サステナビリティ 地域大会）のオンラインによる代替会議です。本校は、第4回目のRCCSから学生及び教職員を派遣しており、平成30年度の第6回大会は、本校で初めて国際会議のホスト校を務めました。

本セミナーでは、サバ大学の協定校であるフィリピン、マレーシアの大学、福島高専の教授陣、スタッフら約100名が参加し、今大会のテーマである

‘Reshaping Tourism for Better Future’（よりよい未来のための観光業の再構築）を主題とした、様々な分野に関する、基調講演及びプレゼンテーションが行われました。



開会式にてスピーチをする山下校長（左）、主催者であるサバ大学のハッサナル教授（右）

令和3年度 小論文コンクール

小論文コンクールは、学生の読解力・表現力向上を目的として国語科が企画し、2年生を対象に令和3年度より実施しました。根拠となるデータや資料の引用を必須とし、夏休みを使って論文題目「SDGs実現のために自分のできること」(800字)に取り組んでももらいました。小論文は国語科の教員が読み、最優秀賞1編、優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、令和4年度の始業式で受賞者に賞状と記念品を贈呈しました。

近年、論理的思考力、コミュニケーション能力といった、主体性や人と関わる力を育成することが求められています。国語科では、小論文コンクール(2年「国語」)、文章要約の練習(3年「国語」)、志望動機書・エントリーシートの作成(4年「日本語表現法」)で、学生の読解力・表現力を磨く授業実践を行っています。

令和3年度小論文コンクール受賞者

- 最優秀賞 : 小林 依央 (化学・バイオ工学科2年)
- 優秀賞 : 佐藤 寧音 (都市システム工学科2年)
- 優秀賞 : 阿部 透真 (ビジネスコミュニケーション学科2年)
- 奨励賞 : 塚田 愛由希 (機械システム工学科2年)
- 奨励賞 : 安藤 佑馬 (電気電子システム工学科2年)

最優秀賞

課題 SDGs実現のために自分のできること

化学・バイオ工学科 2年 小林 依央

最近よく耳にする「SDGs」。環境問題から人権問題と、色々な視点から見た世界の十七の持続可能な開発目標である。その中で私は「平和と公正をすべての人に」について論じていく。

今この瞬間も、世界のどこかでは紛争や戦争が起きている。私は中学生の頃、歴史の授業で学習した原爆に興味を持ち、市の教育委員会が主催する長崎派遣事業で、戦争と原爆を通して平和や公正について改めて考え直した。長崎では何度か実際に被ばくされた方から話を聞いたが、資料では伝わらない恐ろしさだった。いつも通り空襲警報、見回り人の「敵機」の声で防空壕に飛び込むと、大量のカメラのフラッシュをまじまじと見たような白い光に包まれ、爆風が町ごと吹き飛ばした。四百人いた学校の卒業生は数名。生き残っても大切な人とは離れ離れ、帰る家もなく、道端には死体が転がっていたようだ。今では考えられないようなことが起きていたことを知り、言葉では言い表せないほどにやるせない気持ちになった。

これをきっかけに、平和や公正のために私に出来ることを考えた。一つ目は、戦争を風化させないために、長崎で学んだことを身近な人に発信することだ。高校生には、世界中に原爆による被害を発信することはほぼ不可能である。だからこそ、身近な人に伝えることで一人から二人、二人から三人と、段々と広がっていくと考える。もう一つは、積極的に政治に関わることだ。十代、二十代の投票率は、約三割ととても低くなっている。被ばく者や戦争経験のある方から直接話を聞けるのは、私たちが最後の世代だと言われている。そんな私が、政治に対して無関心で他人事とっていていいのだろうか。来年から選挙権を持つ私は、自分のことと認識し、是非政治に参加したい。それが、「平和と公正をすべての人に」を達成するための大切な一歩になると思う。

総務省ホームページより

令和元年七月 第二十五回 衆議院議員通常選挙 十代・二十代の投票率

わくわく体験授業



学校開放事業として福島高専の授業を体験できる「わくわく体験授業」を、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために動画配信という形で開催しました。

本校ホームページを通して中学生からの参加申し込みを受け付け、参加者には11月8日（月）から11月30日（火）までの期間に視聴してもらいました。

81名の参加者があり、申込時には「実際に学校に来校しなかった」、「直接体験することができず残念ですが、楽しみにしています」などの多くのご意見をいただきましたが、どの学科も工夫を凝らした特色ある動画に仕上がっており、本校の授業の雰囲気と魅力を少しでも感じていただけたのではないかと思います。

機械システム工学科 ギアを入ろ 一歯車について学ぼうー



電気電子システム工学科 電気電子システム工学科へようこそ



化学・バイオ工学科 学生実験を見てみよう



都市システム工学科 高専は、「まちのお医者さん」です！



ビジネスコミュニケーション学科 お金と経済学



国際寮(曙寮)の新宮披露式を開催

令和3年12月17日(金)、多くのご来賓を迎え、国際寮(曙寮)の新宮披露式を開催しました。

国際寮は、ユニット毎に日本人と留学生が共に生活し、異文化を理解できるようなシェアハウス型の寮として、単なる宿泊の場としてだけではなく、国際交流活動の場、学生同士が互いに学びあう場としての機能も兼ね備えた先進的な寮です。アクティブラーニングや語学勉強会も実施予定で、語学力や国際コミュニケーション能力の向上が期待されます。



新宮披露式の様子



寮外観



寮 室



トイレ



交流スペース



ラーニングスペース

退職者挨拶



機械システム工学科 一色 誠太

平成10年に着任以来24年間、教職員の皆様にお世話になり、大変ありがとうございました。その間、教務委員・学生委員などを務めさせていただきました。卒研や特研では、スターリングエンジン・風力発電・水力発電の実験研究をさせていただきました。令和4年度に創立60周年を迎える福島工業高等専門学校の益々の発展と、教職員の皆様のご健康とご活躍、学生諸君の文武両道での活躍をお祈りいたします。



電気電子システム工学科 大槻 正伸

今年度で定年を迎えることとなりました。教職員の皆様には大変お世話になりました。

思えば、30年以上前です。4年間のへっぽこエンジニア生活に見切りをつけ1988年に福島高専に来ました。初めて正門を入ると、今もある大きなケヤキが目に入りました。これで私は「ここはなんと相性がいいのだろう」と思いました。というのも「槻」という字はケヤキという意味だからです。大きなケヤキ（槻）が大槻を迎えてくれるとはこれ如何に、です。直感どおり、皆様のご支援をいただき、三十余年楽しく仕事をさせていただきました。教職員の皆様にはもちろん、学生さんたちにも助けられ、学級担任、情報センター、寮務、専攻科、教務、（私の大好きな）将棋部の顧問、等々させていただきました。みんないい思い出ばかりです。あと少し再雇用でお世話になりますが、今後ともよろしくお願いいたします。また、最後になりますが、皆様の益々のご健勝をお祈りして筆を置かせていただきます。長い間本当にありがとうございました。



化学・バイオ工学科 田中 利彦

民間企業に30年勤務し少し早めに定年退職して本校に赴任したのは、まだ震災の記憶が新しい9年前でした。還暦を越えた頃から茨城県南部と車で往復する生活にかなりの肉体の疲れを覚えるようになりましたが、どうにか無事に2度目の定年を迎える事が出来ました。目立たぬところで支えて下さった同僚やスタッフの方々へ深く御礼申し上げます。お陰様で次第にはっきりと表明した個人的意見に共鳴して研究室に集まった学生達のほとんどが、その意見をよく理解して懸命に努力し胸を張って一流の大学や企業に進んで行きました。かなりの満足感を胸にこの第二の人生も全うする事が出来ました。ありがとう。



都市システム工学科 江本 久雄

2016年に着任後、あっという間の6年間でした。当初はCOC+（地方創生）のプロジェクトで採用していただきました。授業や研究を通して学生と関わることができ、たいへん感謝しています。教えているようで私自身が勉強させていただきました。その後、常勤の教員として採用いただき、担任という仕事をさせていただきました。高専らしい経験ができました。また、多くの学生さんに関わることが高専の特徴でもあり、大変な仕事だと感じています。また、学生の皆さんの“無限のエネルギー”により、いろいろなこともありましたが、特に専攻科生の皆さんとは、マスターの学生にも負けない研究成果につながり、驚いています。ここ2年間は本科生、専攻科生とともにコロナによって楽しいイベントができなくなるばかりでなく、十分な研究指導ができず、心残りです。コロナさえなければ、もっとディープな研究の世界などを経験できたと思いますが、次のステップで挑戦し続けてください。大変お世話になりました。

退職者挨拶



一般教科 鈴木 三男

この3月をもって本校を退職することとなりました物理の鈴木です。月日の流れるのは早いもので、全校生の前で新任教員の挨拶をしたのが、本当に昨日の事のように感じております。以来39年間本校で奉職できましたのも、支えてくれた教職員の皆さんのおかげと深く感謝しております。誠にありがとうございました。その間、特に心に残っているのは、11年前の東日本大震災です。当日は、担任した5年生の卒業判定会議の日で、学生の卒業が決まり、安心した矢先の出来事でした。当然のことながら、卒業式も中止となり、彼らの卒業を祝うことも出来ずに非常に残念でした。

学生の皆さん、自由に自分のために時間を使える若い時期はほんの一瞬です。その貴重な時間を自分の将来の目標のために使ってください。5年間の努力は、君たちの実力と自信に変わるでしょう。頑張ってください。

最後に、学生ならびに教職員の皆さんのご健康とご活躍をお祈りしております。



一般教科 宮澤 泰彦

学園ドラマやスポコン漫画を見て育ち、能力・適性も考えずついうっかり高校教員になってしまいました。文武両道を実践する校風のもと、柔道部やクラス担任での熱い指導に夢中になっているところへ、高専に来ないかという再度のお誘い。「地元出身で長くいてくれる人がいい。高校でやってた働きをそのまま期待してるんだから。」などと口説かれ、うかつにも真に受けてしまいました。バブルの盛り。呑気な時代でした。

学年担任団が机を並べ、先輩方に引っ張られながらチームで走る電車ごっこみたいな高校職員室と違い、高専は一匹ずつタコツボに籠り、授業に出て行ったらまた戻るの繰り返し。まあいろいろとありました。結局は高校にいた頃と変わりなく、研究そっちのけで土曜も日曜も柔道部や空手部で部員と一緒に汗を流し、わがまま勝手の言いたい放題。振り返れば諸先輩や事務の方々、同僚そして研究重視の自分より若い皆様には、それこそ迷惑かけっぱなしの35年間でした。ありがとうございました。



一般教科 石原 万里

こんにちは。この3月で退職することになりました。

27年間、教職員の皆様、学生の皆様に支えられて、仕事ができたと、本当にありがたく思っております。担任は、7回、約280人の学生と関わりました。授業でも多くの優秀な学生に出会いました。部活動は、ラグビー、ストリートダンス、演劇。部活動に励む学生の傍らにいて、ともに悩んだり、笑ったり、充実した時間を過ごすことができました。

学生主事補、寮務主事補、学生相談室長（現学生保健センター）、図書館長、グローバル化推進センター長、どの仕事も楽しかったです。学生主事補として、制服を改定し、女子学生のスラックスを導入しました。学生会担当で、磐陽祭の時は、忙しい毎日でした。学生相談室長の時に、東日本大震災を経験しました。図書館長時代には、学生が、静かに、または友人と一緒に勉強できるスペースを作ろうと、担当の先生方や事務方と検討を繰り返しました。グローバル化推進センター長の時には、派遣学生、受け入れ学生のお世話をしました。

学生を教えることも、教職員の皆様と一緒に仕事をするのも、すべて好きでした。

支えてくださった全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。



事務部長 中島 裕二

平成29年4月に福島高専に赴任して5年間在職し、このたび退職することとなりました。これまで、関東や関西、北陸の大学等の諸機関を経験（異動）してまいりましたが、福島高専が10ヶ所目の赴任先でした。今回、地元（会津の出身ですが）の福島高専で退職することができてたいへんうれしく思っております。会津で生まれ育った私にとって雪のほとんど降らない「いわきの地」は、福島と言ってもまったく別天地での（快適な）生活でした。

福島高専に来て感じたことは、震災直後から復興や地域の高専としての役割を果たし、その成果を人材育成や教育研究の充実を図る取組を実施しており、地元の関係者から評価を受けているということです。これは教職員や学生の種々の取組みが地域社会に認められていることの証であり、「福島にある高専」としての役割を十分果たしていると感じたところです。

福島高専で過ごした5年間の日々は、色々としんどいこともありましたが、多くの人との出会いがあり様々な教えを請うことができました。これからは、これらのことを財産として歩んで行きたいと思います。

高専を取り巻く状況は、引き続き厳しい中にあるわけですが、皆様のご健康と福島高専のますますの発展を祈念しております。

退職・転出者等一覧

定年退職

●機械システム工学科	准教授	一色 誠太
●電気電子システム工学科	教授	大槻 正伸
●化学・バイオ工学科	教授	田中 利彦
●一般教科	教授	鈴木 三男
●一般教科	教授	宮澤 泰彦
●総務部長		中島 裕二

転出

●化学・バイオ工学科	准教授	羽切 正英 (群馬高専へ)
●都市システム工学科	准教授	江本 久雄 (鳥取大学へ)

●学生課長

大野 速太

(福井高専へ)

●総務課施設管理係

嶺岸 知輝

(東北大学へ)

辞職

●一般教科

教授

石原 万里

雇用期間満了

●都市システム工学科

助教

橘 一光

●再雇用教員

嘱託教授

山本 敏和

●再雇用教員

嘱託教授

青柳 克弘

新任教職員紹介



総務課 地域連携係 猪狩 幹太

はじめまして、本年1月1日付けで総務課地域連携係に配属されました猪狩と申します。生まれも育ちもいわき市で大学時代を神奈川県で過ごし、4年ぶりに戻ってまいりました。地元いわき市の将来を担う、夢ある学生のサポートができる仕事に就けたことを嬉しく思うと同時に責任を感じております。

趣味は旅行で、長期休暇の際は友人と遠方に赴き絶景を見に行きます。今はコロナ禍により中々県外に行くことは難しいですが、収束したら今まで行けなかった分、楽しみたいと考えています。

社会人1年目でまだまだ不慣れなことが多く何かとご迷惑をおかけしますが、1日でも早く皆さんのお役に立てるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、定められた所得判定基準（年収910万円程度）未満の世帯に対して、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて就学支援金の加算、または未支給となる場合があります。

なお、就学支援金は保護者全員の所得判定基準で判定します。「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援金制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。令和2年4月より、高等教育の修学支援制度へと移行しており、経済的な理由での授業料免除を希望する場合には、まずはこちらの制度への申請をすることとなります。

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。（ただし、授業料の各期の納付期限前6月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。）

経済的理由による授業料免除は、高等教育の修学支援制度の日本学生支援機構給付奨学金に申込んだ上で、給付奨学金の認定を受けた学生が対象となります。前期分は3月下旬～4月頃、後期分は9月頃が申請期間となっておりますので、掲示・メール等のお知らせを確認するようにしてください。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0870

行事予定(前期)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合があります。

4月

4日(月) 入学式(本科・専攻科・編入学生)
5日(火) 始業式
新入生オリエンテーション
専攻科ガイダンス(専1)
6日(水) 前期授業開始
7日(木) 特研オリエンテーション(専1)
13日(水) 全校・校外清掃日
14日(木) 定期健康診断(休講日)
27日(水) 開校記念日
29日(金) 公開授業・寮生保護者総会

5月

2日(月) 学生臨時休業(開校記念日の休日振替)
6日(金) 学生臨時休業(昭和の日の休日振替)
11日(水)～13日(金) 専攻科推薦入試願書受付
11日(水) 後援会総会・学級懇談会・寮生保護者個別面談会
21日(土) 専攻科推薦入試
30日(月)～31日(火) 前期中間試験期間

6月

1日(水)～8日(水) 前期中間試験期間
8日(水)～10日(金) 専攻科学力入試願書受付
18日(土) 専攻科学力入試

7月

1日(金) 学生臨時休業(海の日)の休日振替
1日(金)～3日(日) 東北地区高専体育大会
13日(水) インターンシップ事前指導会(4年)
18日(月) 通常授業日(海の日)
27日(水)～29日(金) 前期期末試験期間

8月

1日(月)～2日(火) 前期期末試験期間
1日(月)～3日(水) 編入学願書受付
2日(火) 専攻科集会
3日(水) 集会
9日(火) 教室整備
10日(水) 補講日・閉寮
11日(木)～9月20日(火) 夏季休業
24日(水) 開寮
31日(水) 登校日

9月

6日(火) 編入学試験
9日(金) 補講日
12日(月)～14日(水) 再試験期間
21日(水) 集会・専攻科集会
22日(木) 体験入学準備日(休講日)
24日(土)～25日(日) 体験入学
26日(月) TOEIC-IP(4年) スタディーサポート試験(1・2年)
27日(火)～28日(水) 校内体育大会
29日(木)～30日(金) 学科行事日(4年) CBT試験

編集後記

福島高専「学校だより」第112号の発刊となりました。

本号には、3年ぶりに保護者をお迎えし挙行された専攻科修了式・本科卒業式の様子が華やかに掲載されております。在校生の参加は叶いませんでしたが、修了生・卒業生一人ひとりの表情には明るさがあふれ、在校生へ伝わるものが感じられます。また、この時季にご退職される先生方も多くおられます。福島高専での想いがつづられておりますので、ご高覧いただきますようお願い致します。